

一筆啓上

作左通信



第九号

平成十三年二月十五日(木)発行

一月二十一日(日)、「平成十二年度 一筆啓上 作左の会 総会」が、約九十人の参加者を得て、六ツ美西部学区市民ホームで行われました。前日からの大雪がやみ、透き通った冬の青空が、この総会を歓迎しているようでした。

総会に先立ち、市民ホーム内に設置された一筆啓上碑の除幕式が行われました。碑に彫られている字は、本多作左衛門の末裔である本多英子さんが書かれました。その字からは、思いやりやぬくもりが感じられます。まさに、本多作左衛門が大

切にしていた人間としての温かさがその字に表れているように思います。この碑が、これからの六ツ美西部学区の新たなシンボルになると思います。市民ホームにお出かけの際には、一度ご覧になって下さい。

除幕式の後、総会に移りました。平成十二年度の事業・会計報告、さらに平成十三年度の計画が出され、参加された方々から承認を得ることができました。また、お忙しい中、岡崎市長の柴田紘一さんが駆けつけていただき、「この会が、地域を基盤に取り組んでい

ることは、とてもすばらしいことです。地域の皆さんと力を合わせ、この会がますます発展していくことを期待しています」というご祝辞をいただきました。

そして、記念講演として現在、西部学区市民ホーム事務長の横山茂さんに「本多作左衛門と徳川三代」と題してお話をいただきました。本多作左衛門や徳川家康の人間性など、短い時間でしたが、内容の濃いお話をしました。特に、横山さん

は、先日、「六ツ美西部の歴史紀行」という本を自費出版されています。六ツ美の成り立ちから現在にいたるまでの様子を、歴史史料をもとに、丹念に分析されまとめられています。中には、本多作左衛門のエピソードや犬頭神社の言われなど

も掲載されています。この一冊で、六ツ美西部のことがほとんど網羅されているように思います。

地域を知れば知るほど、おもしろくなり、地域への愛着心がわくのではないでしょう。除幕式、総会、記念講演を通して、六ツ美西部地区の地域おこしが一歩一歩、着実に進んでいることを実感しています。さらに今年、充実した活動ができるよう頑張っていきたいと思えます。



一披露された一筆啓上碑一